

町提案内容以外で、校区の意向とりまとめのために協議が必要と思われる事項

小カテゴリー	校区	意見、要望内容	6月11日現在 回答
(1)再編方針	阿井	(6)その他 子供の減少による教育限界や建物の老朽化(耐震化)など様々な課題が混在して いて何を大事に考えようとしているのかがわかりにくい	<p>2009年の奥出雲町立学校再編基本計画検討委員会の答申を踏まえて、今後の児童数のさらなる減少を見据えた方針として示しました。 地域の方々のご協力により町内の小学校では少人数学級ならではの教育が行えており、少人数学級のメリットがあることも確かです。 一方で、現在までの出生数から今後の児童数は減少を続けます。それに伴う保護者の減少、地域の高齢化を考えると、今後教育環境をどう維持していくのかも大きな課題です。 町としては、子どもたち同士で学び合える環境の確保のため、仁多地域、横田地域それぞれ1校という規模が望ましいとの考えに行き着きました。</p>
	亀嵩	【再編後の学校・教育の姿】 再編統合する事によるメリットが、1学年の児童数が大きくなることしか示されていない。再編後の学校の姿を議論するべき。	
	八川	・小学校再編問題を論ずる前に、地域をあげて真剣に議論すべき大きな課題がある。このまま何も行動を起こさねば、少子化の歯止めが掛らずこの地域は消滅してしまう。30年後を見据えて、どのような哲学をもって、どのような行動を起こすのか。我が子、孫達にどのような町を残すのか。目先の個人個人の利益を優先した再編議論を行う前に、この町の本質的な課題に、目を背けず議論を始めて欲しい。哲学と将来的なビジョンを共有化してこそ、初めて再編案や存続案の議論が可能となる。 ・町が目指す教育像を、地域の人々が具体的に理解できるようにして欲しい	
	馬木	再編の理由について 「1学年20人程度の学級規模を確保することによって、多様な考えに触れる、子供が子供たちの中で育つことができる」という物理的な環境を前提として語られている。 【対応案】 ・そもそも再編の話が出たのは2009年(平成21年)である。作野先生のデータによると、市町村合併の前後に県内でも合併をした事例が2005年と2011年を二つのピークして存在している。が、最近では、国も安易な統合を求めておらず、県内の他市町でも合併をしないで学校を存続させる施策を明示しているところもある。2009年当時の考え方を踏襲しているのは、“時代遅れ”の施策を奥出雲町はやろうとしているのではないか。 ・大人数がどれだけ生かされるのか疑問	
	阿井	(4)学習に関すること 複式学級でもメリットがあると考えており、再編後の児童数が20名程度になるまで現状の体制を維持しても良いのではないと思う	
阿井	(6)その他 子供の小学校入学をきっかけにUターンをする方もおられる中で、今後小学校の無い地域に帰ってくる人がいるのか不安である 町の現状では再編後の20名2クラス体制もいずれ維持できなくなることが想像できるため逆の発想で、“田舎の少人数教育”を町の特色として打ち出していくのも施策の一つではないか		
亀嵩	【再編後の学校・教育の姿】 大規模校・小規模校それぞれメリット・デメリットがあるので天秤にかけて考えていくべき。	<p>再編すれば、現在ある全ての課題、問題が解決するわけではありません。ご指摘の通り小規模のメリットとデメリット、統合のメリットとデメリットは、それぞれあります。平成31年3月に示しました「奥出雲町立小学校再編方針」の8～13ページで触れておりますのでご確認ください。 町としては、子どもたち同士で学び合える環境の確保のため、仁多地域、横田地域それぞれ1校という規模が望ましいとの考えに行き着きました。まずは、その提案について校区としての意向を取りまとめたいただきます。</p>	
八川	・統合賛成、反対の議論の前に、統合するメリットデメリットと存続するメリットデメリットを聞きたい。		
馬木	複式学級について ・町の説明会のときには、複式学級のマイナス面を強調した説明がなされていたが、ほんとうにそうか？ 学力については、複式学級と単式学級と比較した場合、差はない。むしろ学級が小規模の方が学力が高くなったと作野先生から示されたデータにあったが。 【対応案】 ・複式学級のマイナス面だけでなく、良い面も提示してほしい。また、複式学級卒業者の声が聞ける場を作ってほしい。		

小カテゴリ	校区	意見、要望内容	6月11日現在 回答
(1)再編方針	馬木	<p>新たな再編プランの構築を</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・統合か存続かの二者択一の案が示されているが、小中連携として八束学園や玉湯学園ができたように、時代遅れの施策とならないよう奥出雲町独自のプランを生み出してほしい。</li> </ul> <p>【対応案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥上小と横田小、八川小と馬木小という段階的な再編音であれば、一層現実的だと思う。</li> <li>・20人規模では適応できなくて、少人数規模だからこそ適応できたり救われる児童もいる。そのような児童が安心して学校に通えるよう、敢えて小規模校を1校残しておいてほしい。例えば、三刀屋高校に掛合分校があり、掛合分校は「県立の普通科高校の最後の砦」としてがんばっておられるように。</li> <li>・「『令和の日本型教育』の構築を目指して」の答申によれば、分校を活用し、低中学年は地域に身近な分校に、高学年はスクールバス等により本校に通う方法なども示されている。</li> <li>・中学校が統合する時には、4つの中学校が〇〇校舎として存続した時期があった。</li> </ul> <p>そのように、小学校も名目上は一つの小学校としても、馬木校舎、八川校舎として存続させ、それぞれが特色をもった教育をうちだせばよいと思う。それぞれ特色ある教育の中から、保護者が自由に学校選びができるようにし、校舎の転籍も必要によって自由にできるとよい。</p> <p>例えば、ホッケーに力を入れる校舎 LDへの対応などICT機器の活用に力を入れる校舎 少人数の環境が過ごし易い子のための敢えての小規模の校舎 ふるさと教育に力を入れる校舎</p> <p style="text-align: right;">など</p>	<p>町としては、「令和7年4月に仁多地域1校、横田地域1校に小学校を再編する」提案をさせていただいています。子どもたちの教育環境を考えると、子どもたち同士が学び合うにはある程度の学級規模が必要であり、その持続可能性を考えた結果、再編が必要との考えに行き着きました。</p> <p>校区の皆様には、町の提案に対し「再編に同意する」または「再編を見送る」のいずれかを校区の意向としてまとめていただきたいと考えています。</p> <p>なお、町としては全ての校区に同意いただき再編することが子どもたちにとって最善であると認識しています。</p>
	阿井	(1)小学校再編に係る資料提供に関すること 子ども達にとって多人数学級の方が少人数学級より良いという根拠を示してほしい (少人数学級で育って社会人となった人達の意見を聞きたい)	再編すれば、現在ある全ての課題、問題が解決するわけではありません。ご指摘の通り小規模のメリットとデメリット、統合のメリットとデメリットは、それぞれあります。平成31年3月に示しました「奥出雲町立小学校再編方針」の8～13ページで触れておりますのでご確認ください。
	阿井	(1)小学校再編に係る資料提供に関すること コロナ禍の中で従来に無い生活様式が示されていく中で、再編以外の学校運営方法など検討されているか(例えば、基本的な学習方法は現状維持し、人数の必要な体育は合同で行うなど)	町としては、子どもたち同士で学び合える環境の確保のため、仁多地域、横田地域それぞれ1校という規模が望ましいとの考えに行き着きました。まずは、その提案について校区としての意向を取りまとめたいただきたい思います。
	阿井	(2)再編スケジュールに関すること 令和4年3月に一旦「再編しない」という方針となったが、その後、「再編する」という方針へ変更した場合、令和9年度までの再編は困難とするのは何故か具体的に示して頂きたい	令和7年4月開校の統合小学校の運営が落ち着くのに2～3年程度必要を想定しています。年度を遅らせて再度の統合となると、子どもたちにとっても、集団に入っていく立場、受入れる立場それぞれで、連続する再編となり負担が大きいと現時点では判断しています。
	亀嵩	【再編スケジュールについて】 古い校舎の耐震性の問題を考えると一括統合にこだわるべきではない。一刻も早く新三成小の建築に着手し、古い校舎を使っている学校は先行して統合すべきではないか。他の学校はゆっくり議論し、統合することになれば増築で対応できるようにする。他の学校が統合することになった場合に増築、あるいは将来の減築が可能なような構造とすればよい。	
	阿井	(4)学習に関すること 生徒一人に対する教職員の学習指導時間が確保されるのか、教職員への負担はどのように変化するのか示してほしい	少人数学級では教員一人当たりの児童数は単純に少なくなるため、総合的に児童一人に対応できる時間は多くなります。一方で、複式学級になると算数での学年別指導「わたり」による授業では、2学年分の授業準備が必要です。 また、現状で本町の多くの学校で重複を繰り返す状況になっており、この場合は、算数以外の教科(例えば、国語、社会、理科)においても学年別指導が必要となります。
	布勢	要望でもあげたが、統合小学校の時期、場所について、様々なケースを踏まえ議論が必要だと考える。布勢や三成の校舎が今にも倒壊の危険が迫っているようであれば、最も新しい亀嵩の校舎に布勢と三成の児童を通わせるといった考えも無視できない。子供達の安全と、安心して学習できる環境を第1に考えなくてはならない。	
	馬木	再編校の場所について ・そもそもなぜ横田小でなければならないのか。横田は、町の中心なので、横田小は町の拠点施設としての活用が望ましい。コミセンもかなり老朽化しているので。 ・通学距離、時間を考えると横田地区が現実的と示されているが、その根拠を示してほしい。 【対応案】 ・通学距離や学校の新しさの点からみれば、八川小学校の方がよいと思われるが、八川小学校が現在の町内の児童数を受け入れるキャパがないのなら、統合を急がなくてもよいのではないかな？	仁多地域では亀嵩、横田地域では八川が近年改築した校舎となりますが、教室数や面積が再編後の児童数を前提としたものではないため増築が必要となります。 各地域の中心である三成地区、横田地区への再編が現実的と考えています。

小カテゴリ	校区	意見、要望内容	6月11日現在 回答
(2)今後の進め方	阿井	(2)再編スケジュールに関すること 再編方針の見直しが行われて協議期間が延長された後にコロナ禍の影響で再編協議を再開することができない状況が続き、第1回目の校区別協議会が開催されたが実質協議期間が残り1年を切っている。地域での十分な協議期間を確保するため再延長する考えはないか	令和4年3月の意向とりまとめをお願いしております。まずはその期限に向けて協議いただきたいと考えます。
	馬木	再編時期について ・仁多地域の設計・工事完了を考慮して令和7年4月の線が提示されているが、そもそも両地域の足並みを揃える必要があるのか。 ・令和3年度1年間では、地区内で十分な協議をする時間がない。	
	亀嵩	【再編スケジュールについて】 “当初の再編方針で設定した再編協議期間が短すぎたことを反省し、修正方針では協議期間を長くとした”という事なのに、結局協議期間が1年も無くなってしまった。時間を十分に取って協議するべきなのにスケジュールを最低1年遅らせるべき。また、仁多地区の生徒は、統合予定のR7年まで学級数12だが、その後は10学級となり増える見込みはない。R7年統合だと、補助金は12学級分出て得ないように見えるかもしれないが、結局は無駄に大きな学校を建てることになり町の財政負担が大きくなるのではないかと。生徒数・学級数が減り続ける中、R7年に統合して12学級分の校舎を建てる意味はあるのか。R8年以降の統合でコンパクトな校舎を建てた方が良くはないか。	
	馬木	協議期間について ・令和4年3月の意向取りまとめの期限としているが、令和2年度はコロナの影響で地区の意向をとりまとめるための話し合いの場を持つこともできなかった。 【対応案】 ・地区の意見のとりまとめに時間をもっとかける必要があるため、期限を後にずらしてほしい。	
	馬木	協議期間について ・令和3年2月に作成された「協議会スケジュール案」によれば、令和4年3月がタイムリミットになっているが、もっと時間をかけて協議できるよう見直してほしい。 【対応案】 統合の時期ありきではなく、多くの町民が納得できるよう、種々の質問や要望に対する回答をいねいに行ってほしい。 また、教育委員会スタッフをはじめ、町会議員さんたちには、『令和の日本型教育』の構築を目指して「答申(本文)」を熟読してほしい。 そのためには、町・教育委員会内でも十分時間をかける必要があると思う。	
	鳥上	教育委員会様との隔たりを払拭する場を設けていただく場面があると思います。よろしくお願ひいたします。再度、住民への説明会など。	
	布勢	議論が必要な事項については後日、各地区ごとの議論の場を求める。	代表者会議において各校区との調整の場も設けさせていただきます。
	馬木	統合に積極的に賛成な思いを大切にすることも ・馬木地区にも統合に積極的に賛成の保護者もおられる。1分1秒でも早く統合してほしいと言う保護者もおられる。 【対応案】 ・再編計画が先送りになったのを残念に思っている保護者もいる。統合への期待を持たせた分、横田小への区域外通学も柔軟に認めてほしい。 ・馬木地区が統合を見送った場合、統合小学校への区域外通学を柔軟に認めてほしい。	区域外通学については、町の規則や要綱に従い、従前と同様の運用を行います。
(3)再編実施準備について	馬木	統合した場合の保護者数への対応 ・保護者数の増加に伴い、学校行事の際の保護者の駐車スペースの確保はできるのか 【対応案】 ・駐車スペースの確保が必要	再編後の制服(体操服)など、開校に向けた具体的な事柄については、意向とりまとめ後の校区別協議会や代表者会議で協議する予定です。 現状、町としても保護者負担はできるだけ減らしたいと考えています。
(3)再編実施準備について	馬木	体操服・制服・上靴 ・早い段階で選択、購入できる案を示してほしい。買い替えをしないといわず、家庭の負担が増えないような方策を考えてほしい。	
(3)再編実施準備について	馬木	学校行事・プール ・運動会は横田小学校の校庭では狭いと思うが。	
(3)再編実施準備について	横田	児童数減少による保護者役員の負担軽減	

小カテゴリ	校区	意見、要望内容	6月11日現在 回答
(4)中学校再編の検討	阿井	(5)中学校の再編に関すること 中学校の再編を検討する(優先する)状況にあると考えるが、中学校の再編について町の考えを伺いたい(特に部活動の選択肢が狭まってしまっている)	<p>今回の再編協議において、中学校再編を協議する計画はありません。</p> <p>これは、小学校再編については平成19年度に有識者による検討委員会を立ち上げ、そこで答申された内容に基づいた再編協議を現在進めていることから、中学校再編について協議する場合も同様の手続きを踏むべきと考えるためです。</p>
	阿井	(5)中学校の再編に関すること 中学校の部活動に影響が出てきているが、「奥出雲中学校」に再編して仁多校舎、横田校舎で運営することはできないのか	
	阿井	(5)中学校の再編に関すること 中学校の再編を検討する場合、子供の精神的負担を避けるため小学生と中学生で学校再編を二度経験することのないよう計画には細心の注意を払って頂きたい	
	亀嵩	【中学校統合の検討】 中学校の統合は考えていないとのことだが、横田中学校は1クラスでクラス替えが無く部活動の選択肢も少ない。そのため町外の中学校への進学を考える人もいる。中学校の統合も検討委に入れるべきではないか。	
	布勢	中学校の再編について、同時進行で議論すべきと考える。現在の進め方は問題の先送りにしかっていない。小・中学校の再編を同時に考えることにより、アイデアも生まれる。例としては、町で小学校1、中学校1にすることにより空いた中学校校舎を小学校校舎として活用できる。中学校の部活動の選択の幅も広がるはず。横田中学校の位置を統合中学校とすれば横田高校への進学率も上がる可能性もある。	
(5)子どもと地域の関わりについて	阿井	(3)小学校と地域行事の連携に関すること これまで地域と学校が一体となって行われてきた行事は、教職員の皆さんに協力頂き成り立ってきた。再編をした場合、学校側の関与は無くなるので「地域のみで完結するよう努めるべき」という町の方針と理解して良いか	<p>各校区の現在行われている活動を全て継続することはできません。</p> <p>各学年毎に各地区に分かれて活動を続けるなど、新しいやり方で地域とつながっていく方法を協議会などで一緒に検討いただきたいと考えております。</p>
	阿井	(3)小学校と地域行事の連携に関すること 各学校で行われている農業体験や地域行事は、継続や参加が難しいと回答されているが、そういう関わりが無くなっていくと地域への愛着心が薄れていくのではないか	
	阿井	(3)小学校と地域行事の連携に関すること ふるさと学習(たんぼの活動、地域の歴史学習など)の強度を確保してほしい	
	馬木	統合後の馬木のありかた ・馬木の子供たちと馬木地域との交流はどのように維持するのか これまでの「たんぼの活動」「地域の祭り」「神楽」などは？ ・馬木小の校舎は、地区の拠点施設とし、公民館機能を移転するとあるが、現存の馬木コミセンの活用はどのように考えられているのか。	
	横田	各校区での伝統的行事・学習の取り扱いについて	
	横田	地域行事開催時(地区民運動会等)の運営方法・仕組みについて	
			<p>各地区同一日程で行われる行事(仁多地区の運動会等)であれば、休校日にすることにより全校参加が可能です。</p> <p>日程が異なる、祭り(神事)や体験活動は、学校活動としての参加は難しいため、休日や放課後の自主的な参加が基本となると考えます。</p>

小カテゴリ	校区	意見、要望内容	6月11日現在 回答
(6)役場内の連携、取組について	阿井	(6)その他 定住対策、子育て支援など他の行政課題を含めた総合的な施策も検討していかないと学校再編のみでは根本的な解決にならないと考える(再編後も同じように子供が減れば再編を繰り返すのか?)	<p>小学校再編に同意いただいても、各地区においては今まで以上に元気でいていただきたいと考えており、町全体で地域が元気になる取組をする所存です。</p>
	馬木	<p>児童数減に歯止めをかける町の対策は?</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童数の減少が再編の理由であるが、では、児童数の減少に歯止めをかけるための町の対策は?</li> <li>令和2年3月に出された「第2期 奥出雲町子ども・子育て支援事業計画」に示された「奥出雲町の定住促進のための支援の現状」を見た。それによって、どのくらいの実績が出ているのかデータを示してほしい。</li> <li>・上記の対策は、奥出雲町の特徴が出ているものではなく、全国どこでも行われていると思う、■全国の同様な過疎地の中から敢えて奥出雲町を選んでもらえるような魅力的な施策を生み出す必要がある。それを町から聞きたい。</li> <li>・Uターンのかたを受け入れる定住対策における小学校の位置づけや子育て支援対策における小学校位置づけを示してほしい。</li> </ul> <p>【対応案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ふるさと留学奨学金」として子ども一人当たり10万円を支給する制度があるが、本気で移住したい人にとっては一時的なお金の支給ではなく、移住後の実質的な生活の質だと思う。</li> <li>例えば、地域住民との暖かいふれあいなどは魅力的な材料だと思うが、せっかくUターンした人が地域に馴染めず奥出雲町を離れて行かないような町の施策を示してほしい。</li> <li>・今年3月17日のクローズアップ現在で「他拠点生活」を取り上げていた。リモートワークが可能な人たちが、自宅ではなく全国魅力的なところに行き体験するという考え方があった。そのような現在のニーズに合う方策を取り入れてほしい。</li> <li>島根県内にも隠岐島前高校の高校魅力化の成功例や雲南市の幸雲南塾などの事例が身近にある。それらの先進事例から積極的に学ぶことはできないか。</li> <li>・隠岐島前高校からはじまった魅力化プロジェクトが、現在では島前三町村に広がっており、各町村教育委員会を中心に、小中学校ではそれぞれの特徴を活かして「島留学」を実施し、すでに何組もの生徒や家族を受け入れているそうである。奥出雲町でもそのような積極的な動きを作りだしてほしい。</li> </ul>	
	八川	<p>国が推進する「統合小学校の教育環境充実に関する取組モデルの創出」の補助金事業を活用して、リモート授業やドローン活用などの特色ある教育環境を整備し、若い人達が登校させたいと思う魅力的な小学校を創出して欲しい。この議論の検討を願いたい</p>	
(8)教育環境について	亀嵩	<p>【再編後の学校・教育の姿】</p> <p>不登校や特別支援のありかたについても協議して頂きたい。現在、不登校の子どもが通える場所が町内に無く、雲南市教育委員会と連携しおんせんキャンパスに通うことが可能と聞いているが、町内にそのような場所を確保するべきではないのか。</p>	<p>不登校や特別支援については現在でも教育上の重要な課題として認識しています。</p> <p>このため、平成31年度より教育魅力課に専任の会計年度任用職員を配置し取り組みを強化しています。町内での不登校に係る支援施設の設置は、専門的な人材の配置が必要なことから、具体的な設置の検討まで至っていません。</p> <p>再編に関わらず今後も重要な課題として取り組みます。</p>
	馬木	<p>今教育が取り組まなければならない課題について</p> <p>現在は社会が急激に変化する時代の中で学校教育が変わる潮目の時期が到来している。</p> <p>令和3年1月26日に文科省の中央教育審議会から「『令和の日本型教育』の構築をめざして」の答申が示されている。</p> <p>それによると、奥出雲町でも下記の課題は共通していると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子供たちの多様化(特別な支援が必要な生徒の増加、不登校生徒の増加、いじめの重大化)</li> <li>・society5.0の時代に対応した学校教育としては、デジタルデバイスの使用が低調であること(GIGAスクール構想の適切な活用)</li> <li>・新型コロナウイルスをはじめ新たな感染症への備えその対応策として</li> <li>・「個別最適な学び」(指導の個別化と学習の個性化)の重視</li> </ul> <p>【対応案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『令和の日本型教育』の構築のための課題解決を目指すならば、統合して20人規模の学級内で行うよりも小規模の人数で行う方が成果が出ると思われる。例えば、GIGAスクール構想を生かすため、個々の児童・生徒のICTスキルを習得させる場合などである。</li> <li>・LDの児童生徒には、一層、ICT機器を代替手段に使った合理的配慮が必要である。他の子ども小人数の中で適切な支援を受けていると、LDの子が合理的な配慮を受けていることを「ずるい」とみなさず受容する雰囲気生まれやすい。</li> <li>・現状、奥出雲町内の小中学校で <ul style="list-style-type: none"> <li>○支援が遅れがちなLDの児童生徒にどのような合理的配慮がなされているのか、何人が必要な合理的配慮が受けられているのか</li> <li>○不登校の児童・生徒にどのような対策が実施され、どの程度の人数がその対策の恩恵を受けることができているのか</li> <li>○20人程度の学級規模では適応できにくいASDやHSPの児童・生徒がどの程度いるのか実情を調査して報告してほしい。</li> </ul> </li> <li>・GIGAスクール構想として、各小学校でどのような活用を考えているのか示してほしい。</li> </ul>	

小カテゴリ	校区	意見、要望内容	6月11日現在 回答
(8)教育環境について	馬木	今教育が取り組まなければならない課題について ・共同的な学びによって「主体的・対話的で深い学び」を実現する。 そのためには、同一学年・学級だけでなく、異学年の学び、ICTを活用して他の学校の子供との学び、地域社会での体験活動なども示されている。 【対応案】 ・もう少し馬木小学校を存続させてもらい、月に1~2回合同で学習する機会を設ける ・一層地域の人の人とのつながりが増えるような活動を学校・地域(小さな拠点作りとも連携)とが連携して生み出す必要がある。 ・高校生や大学生などとも交流できる場も生み出す。例えば、島根大学は雲南市と連携し、空き家に「雲南フィールドステーション」を開設し、地元の中高生との交流や耕作放棄地を使った米作りなどを行っている。 ・「公報しまだい(2021年4月号)」にも島根大学の新ビジョンとして4つの観点が示されているが、その一つに「地域・社会連携」が挙げられている。奥出雲町も島根大学等と積極的な連携策を練ることはできないか。	地域における社会教育も含め、様々なご検討をしていただいています。 地域主体での学びの場の創出については、公民館活動や地域づくり推進課が進める小さな拠点づくりを含め、町全体で支援を行っていきます。
(9)徒歩通学距離(3km)について	横田	長距離徒歩通学生へのサポート体制	長距離徒歩通学生へのサポート体制については、令和4年度以降の校区別協議会や代表者会で協議する予定です。
(10)他市町村の事例等の情報提供について	阿井	(1)小学校再編に係る資料提供に関すること 再編に係る予算等の議会に提出されている資料も提示してほしい	
(10)他市町村の事例等の情報提供について	阿井	(1)小学校再編に係る資料提供に関すること 検討された他市町村等の事例があれば、その検討内容等を含めて資料提供してほしい	
(10)他市町村の事例等の情報提供について	馬木	先行的に統合を検討された地域について情報提供 ・小学校を失った地域の様子などを知りたい。 ・統合しないことを決めた出雲市伊野小学校の様子などについても知りたい。 【対応案】 ・各地域に分配されている予算額では、到底他の地域の情報を知るための予算が足りない。また、馬木地区だけで開催するよりも、奥出雲町全地域の人が再編を考えるために学んでよい情報だと思う。町が企画して、情報発信をしてほしい。その際、その情報を知りやすいように、従来のやり方だけでなく、情報発信の方法は一層工夫してほしい。	文書配布やホームページ等でできる限りの情報提供を行います。
(10)他市町村の事例等の情報提供について	八川	日本国内で実施された統合の成功事例、失敗事例、及びどのようなプロセスであったのか勉強会→OJT(役場の方主催)	
(11)その他	八川	八川小が抱える課題の洗い出しと解決策(例:イチョウの木、銀杏の管理) 八川地区の大事な財産 何をどうやって残していくか(年長の子が年少の子の面倒を良く見てくれる。大人達も男尊女卑なく偉ぶらず、しかしお互いの役割を遂行。集会の後片付け等を皆が率先して実行する。子供達は大人の姿を見倣う)	